

地域おこし協力隊通信

〈初期メンバーの3名が協力隊を卒業〉

◆無限大の可能性

片岡 薫哉

協力隊任期中は様々な方に大変お世話になりました。深くお礼いたします。

農事組合法人宮市の農業班としてお米の管理について、お味噌の製造や販売について関わらせて頂いてその中



で江府町ならではのいいところや農業のこれからについて考えさせて頂く機会もありました。

江府町の農業の可能性は無限大にあり、ストーリーセールスをするのにも最適な環境だと思っています。来年度以降も特産物の加工等で農業に関わっていききたいと思っております。

一人の町民として、一人の移住者として今後ともよろしくお願いたします。

4月からは、社会福祉法人尚仁福祉会とNPO法人奥大山倶楽部で活躍されます。



◆協力隊活動を振り返って

上谷 美波

3年間を振り返ってみると、いろいろな事をしたなあ...と思います。研修ではひまわり号に乗って町内をまわり、みちくさで野菜を売りました。協力隊が本格的に動き出すと、保育園でものづくり教室「つくってあそぼう」を毎月したり、非公認のゆるキャラを自作したり...



特に最後の1年で、町の社会教育に関わることができたのは、協力隊としても社会人としてもとても貴重な経験ができました。協力隊としてはもう活動をしません、引き続きできることは、新しい仕事をしながら継続していこうと思います。町内や町外でみかけたら気軽に声をかけてください。今までありがとうございました。

4月からは、江府中学校の学習支援員として活躍されます。

◆私にとつての江府町

雨宮 達樹

私にとつての江府町とは、私が3年間で接してきた町民の皆さんそのものだと思っています。私を含め、江府町に観光や移住を考えてやってきた人にとつては、江府町で出会った人と接した時間がその人にとつての江府町の記憶になってしまふのだと感じました。江府町は今後ますます移住者や観光客の方が増えていくと思いますが、そんなよそ者に対して偏見を持たずに暖かく接してあげて欲しいです。たつたそれだけで、江府町って良い所だったな。また行ってみたい。住んでみたい。ということにつながる事が出来ると思います。そしてその積み重ねが江府町をより良い町にしていくと信じています。

最後に：私が3年間協力隊を辞めることなく、江府町を出て行くことなく活動を続けることが出来たのは、私に良くして下さった町民の方々のおかげです。3年間本当にありがとうございました。私は協力隊の任期終了後も江府町に定住します。これからは地域おこし協力隊としてではなく、一人の江府町民としてよろしくお願致します。



4月からは、鳥取県の職員として活躍されます。